

[博士論文審査要旨]

申請者：中村英仁

論文題目：実業団陸上部における監督の仕事—監督が担う複数の役割に着目して—

審査員：岡本純也

加藤俊彦

島本 実

本論文は、競技力向上を目指した企業スポーツクラブの運営実態を、監督の役割に着目しつつ、関係者への詳細なインタビュー調査をもとに明らかにしようとした研究である。

長年、わが国のトップアスリートの育成・競技力向上は企業内のスポーツクラブによって担われてきた。企業の内部組織として運営されながらも競技活動を実施するという、いわば特殊な位置づけとして扱われるスポーツクラブは、社員の士気高揚や企業・商品の宣伝広告といった期待された機能を最大化するために競技力向上を求められてきた。しかしバブル崩壊以降、このような実業団は母体企業の経営方針の変化を理由として多くが休部・廃部に追い込まれている。本論文は、そのような中でも長期にわたり存続し、国際的にみてトップレベルの競技力を維持し続けている、企業の陸上競技部（長距離種目）を対象とし、実際にどのようにクラブ運営が可能になっているかに光を当てようという試みである。

既存のスポーツマネジメントの研究領域において、企業スポーツの運営実態についてはほとんど扱っていない中で、本研究がもたらした貢献は二つある。まず、企業陸上競技部の監督の業務、特に「指導者以外の役割」について着目し、実態を明らかにした点である。本論文は、24組織の42人に対して実施したインタビュー調査にもとづき、監督が企業の中でトレーニング環境をはじめとした様々な資源をいかにして動員しているのかを丹念に記述している。この点が本論文の最も大きな貢献である。また、監督の行動を類型化し、その類型によってスポーツクラブのマネジメントのあり方がどのように異なるのかを明らかにしたことこそがこの論文の貢献といえよう。

一方、本論文には次のような問題も残されている。まず、陸上競技部の監督へのインタビューを中心的データとしたため、クラブ運営の様々な施策を決定する際の母体企業側の意図が十分に描かれていない点である。企業側のクラブの活動に対する理解や意図などについても考慮すれば、企業スポーツの運営実態についてよりダイナミックに描くことが可能になるであろう。また、クラブの運営に影響を及ぼす様々な外的要因をここでは「環境」と記述しているが、この概念の検討が不十分な点も今後の課題となる。しかしながら、これらの課題は本論文の基本的な貢献と価値を損なうものではない。

よって、審査員一同は、所定の試験結果をあわせ考慮して、本論文の筆者が一橋大学学位規則第5条第1項の規定により一橋大学博士（商学）の学位を受けるに値するものと判断する。